

はじめに

2017年は、北米で粉体の微粉化傾向が進んだ感がある。特に、金属粉で以前は20~44 μ 程度までであった製品スペックが10 μ を切る例も多く出てきたことなどがその一例である。背景に、電子部品の小型化、3Dプリンターの台頭などがあると推測する。こうした微粉粉体を製造する技術は日本の粉体機器メーカーの得意とするところであり、こうした先端技術面で、これから日本企業に海外で追い風が吹く可能性が高まってきているといえよう。

今年の4月後半に米国シカゴでパウダーショー(2年に一度)が開催され、日本からこの展示会やその他の米国の展示会に出展を予定している会社も多いと思われるので、米国の展示会について以前にも報告したが、主に日本と違うやり方にスポットを当て、今回まとめてみたい。

1. 出展社 (Exhibitor) のできないこと

米国の展示会場は、各ユニオンが取り仕切っており、ユニオンのルールに従って展示会準備を行わなければならない。シカゴ・マコーミックプレースのような大きな展示会場から、小規模の展示会場まで共通する一般的ルールを以下に紹介する。展示会のマニュアルの中に必ず書いてあるので、出展社はこのローカルルールを守らなければならない。米国以外の特にアジアからの出展社は、ルールを知らないのではないかと疑われて、ユニオンの監視員に目をつけられていると思って、特に注意をしたい。

- ①多くの会場で、ブースまでトラックを持ち込めないことが多く、ブースごとに決められた搬入日に、後方のみ扉があるトラック(ウィング車・平ボデーはまずない)で荷物を会場に運び、会場のドックからユニオンのフォークリフト運転者が荷物を一つずつ下ろし、各ブースの近くまで持ってくる。(この際、ブース別に、荷物の重量を測定し、Drayage(横持ち料)という形で請求される。会場に直接持ち込まないで、事前に会場指定の倉庫に搬入すると、直接搬入時のトラックの長い待ち時間をなくすることはできるが、横持ち料は、別の倉庫からの横持ち料が付加され、指定日に直接搬入するより一般に高くなっている。
- ②カート(4輪)での荷物の搬入・搬出ができない(ドリーも認められない会場があるので注意を要する)。
- ③その他、会場ユニオンのみが行える作業(主なもの)。
 - ・木箱の解体、組み上げ(スキッド状態にして会場に持ち込めば、ユニオンに依頼する必要がないので、この費用を節約できる。)
 - ・天井からハンギングサインをつりさげる
 - ・フォークリフトでの機械設置・移動・撤去
 - ・電気、圧空、給水・排水施工
(ライトを取付ける作業も電気工事に含むので、装飾会社はライトを設置することはできないが、出展者自身が行うことは可能。)

2. 出展社 (Exhibitor) のできること、やるべきこと

すべてお任せのブースパッケージを依頼しない限り、ブースの装飾は、カーペットからすべて、出展者が手配しなければならない。ブース代に含まれるのは、通常、ブースを借りる費用(後ろのカーテンの上部に吊るされる社名表示程度)と、バイヤーズガイドへのリステイング費用のみである。ここまでは、日本と同じであるが、自分で手配するときの方法が異なる。

- ①EAC (Exhibitor Appointed Contractors) は、出展社が自社で採用できる装飾会社のことで、会場ユニオン以外の会社に仕事を依頼する場合、事前に届け出ておく必要がある。一般に、EACに仕事を依頼するほうが、会場ユニオンに仕事を頼むより、丁寧で安いことが多い。ただ、安いだけで質の悪い会社も存在するので、EACを選定する際は、地元で展示会になれた会社に相談すると、経験に基づきよい会社を紹介してくれる。

《EACが行える作業(ユニオンも可能)》

- ・家具、AV機器、花・観葉植物レンタル
- ・トラス・パネルの組み立て・設置・撤去
- ・ポスター設置・撤去
- ・カーペット設置・撤去

- ②ツール(レンチ、ドライバーなど)を使わない、一人で行える30分以内の作業は出展者が行える。また、装飾会社に頼まなくても、1~2日間程度のブースであれば、出展社自らが行うことはかなりの範囲で許されている(3年ほど前にルールが変わり、イリノイ州では、自分のブース内であれば、工具を使っての開梱・梱包作業も許されるようになった)。
- ③電気工事、機械の配置図を事前にユニオンに申し込んでおくと、準備当日の仕事がスムーズにはかどる。
- ④スキッドなどの展示会中に不要なものは、“Empty”ラベルを貼ることで、ユニオンで展示会終了まで無料で預かってくれ、展示会終了後、各ブースに返却してくれる。しかし、いつ返してくれるかは分からず、大きな会場では、3~4時間返ってこないこともある。展示会終了日に片付けを行う必要がある場合は、ブース内に物置を設け、自ブースで保管することをお勧めする。
- ⑤ブースの片付けが終わったら、Bill of Ladingに記入して、ユニオンに提出すれば、すべての作業が終わる。仕向け先や引き取りトラック会社が異なる場合は、別々に記入して提出しなければならない。書類が不備だと、指定した引き取りトラックが会場に荷物を取りに行っても引き渡してもらえず、後でユニオンに直接送りつけられ、高額な運送費を請求されることもあるので注意をしたい。

おわりに

これらを参考に、大いに北米の展示会を活用し、日本製品や自社のブランディング向上を図られたし。